

2024年度 事業報告

活動総括

2024年度、KFCでは新たな取り組みとして渡日間もない高校世代の就学、進学への支援の取り組みと中央区（元町）での外国ルーツ小中学生の学習支援教室を始めました。KFCは、より幅広い世代により身近なところで支援を広げていくことを進めました。

全国的な傾向でもありますが、日本在住外国籍者の多国籍化、分散化は兵庫県、神戸市でも顕著な傾向となっていることからKFCが関わる外国人もネパール、ミャンマー、その他にもいままで関わりのなかったような国籍の人が増えました。

特定の国籍と特定の在留資格種別がリンクする傾向が、日本の外国人政策により色濃い状況にあるため日本で暮らす外国人は、国籍により年齢層や家族同伴の有無などが異なり課題も多様になっています。KFCでは、今までの実践を踏まえ各外国人コミュニティのニーズに沿った日本語支援や子ども支援、高齢者支援に取り組むとともに各コミュニティの交流活動や日本人住民との相互理解に繋がる事業に取り組みました。

3年目となったウクライナ避難民支援は、戦争の長期化によりウクライナの人々の選択も日本を離れる人、日本での長期滞在を考える人と岐路を迎えています。壮年男性が戦争によって非常に少ないウクライナ避難民の日本での生活基盤づくりは困難な状況ですが、孤立を防ぎ社会との繋がりを作れるよう自立に繋がる就労と社会参加の場づくりに尽力しました。

今も悲惨な状況が続くパレスチナの子どもの支援のために始めた「KFCパレスチナ・ガザ子ども支援活動」として、年度末から翌年度はじめにかけて映画上映会でもお世話になった古居みずえさんと京都にあるアースキャラバンから写真パネルを借りて写真展の開催を古居みずえさんの講演も併せて開催しました。多くの人の寄付をパレスチナ子どものキャンペーンに託すことができました。

また年度末には、KFCの支援事業を広げることを目的にKFCとして初めて土地付きの不動産物件を購入しました。行き場を失った外国ルーツの人の寄り添いとしてまたKFC事業の拡大に伴う備品の置き場としての活用を進めていく予定です。

昨年から進めてきたKFCが人権を尊重する組織であるために必須と考えてきた、コンプライアンス遵守やハラスメント・マイクロアグレッションのない法人として整備してきた規定の第1弾として「ハラスメントの防止に関する規定」を制定しました。引き続きKFCが人権を侵害されない組織であるための努力を続けたいと思っています。

KFCの既存の事業においても高齢者支援では、明舞地域に暮らす中国残留邦人帰国者と家族の加齢、虚弱化への対応が難しさを増す中、いままでの生活習慣や異なる文化をどうすれば既存（介護保険）の事業枠に合わせられるのかという外からは見えにくいが多様な努力のいることに尽力した1年となりました。また英語話者、スペイン語話者である高齢利用者など神戸市全域からKFCの多文化間介護が周知されていることから多くの問い合わせが入り試行錯誤のなかで支援を進めました。

ふたば国際プラザの委託運営は、再度の更新が決定し概ね3年の事業運営の継続が決定しています。

2022年度からはじめた笹川平和財団からの委託事業・「共生社会モデル構築事業」は、共生社会を願う若者たちが合宿での学びを通して主体的に共生社会に必要なことを発信する「ことばを紡ぐプロジェクト～共生社会のためのボーダーをこえる人づくり～」に取り組み、フォーラムや報告書作成などさまざまな方法で成果を残すことができました。

急激な物価高騰が続く中、KFCの事業は、支出を補うための収入（委託事業など）が見直されないという厳しい状況となりました。にもかかわらずというべきかそんな状況だからこそKFCが支える人たちは、今や外国ルーツの人々だけでなく事業で関わる日本人の多くも苦しい暮らしを強いられています。弱者に寄り添い支えるためには、難しい判断に迫られることの多い2024年度でしたが、近隣大学からの実習依頼や全国からの視察、メディアからの取材・出演依頼なども含め多くの人が、関心や期待を

寄せてくれました。

KFCの歩みとビジョンが認められていることを実感できる1年でもありました。

会員、運営体制、会報・メールニュース発行、HP・フェイスブック発信

2024年度会員数は、正会員44、賛助会員259でした。(2025年3月31日現在)

運営体制としては、通常総会を5月18日に開催、理事会を6回開催、また各事業部門管理者ミーティングを月1回開催、必要に応じて連携会議を随時実施しました。

またKFC会員および関係者に向け、隔月KFCニュースを発行しました。

ホームページについてはKFCの事業情報やニュースのバックナンバーを適宜アップし、フェイスブックでもふたば国際プラザと連携した情報発信に努めました。

メールニュースは、登録者数400名弱、年5回発信しました。

各プロジェクト報告

日本語プロジェクト

2024年度、地域日本語教室として、対面のクラスを水曜日、日曜日の午前、木曜日の夜間に行いました。ウクライナ避難民対象の教室は、水曜日と木曜日の午後に対面クラス、水曜日と木曜日夜間にオンラインクラスを行いました。地域の人との交流事業として5月に「スピーチ会」、11月に「ふたばまちのぶんかさい」に屋台で参加しました。ボランティアによる企画の遠足を9月に行いました。「留学生向けお話し会」を2月から行いました。

数年前にゼロからスタートした方々が、JLPTのN5～N2に相次いで合格し、次のステップの学習に取り組んでいます。今年度から学習をスタートした方々も各々自分のペースで上達しています。

最近、日本語教室は学習の場だけでなく居場所としての機能も持つようになりました。例年、年度初め頃から新規の学習申込が増えます。夏前にはボランティアの数が極めて足りなくなり、7月に神戸新聞にボランティア募集の記事を掲載してもらいました。そのおかげで、学習できる人の数が増え、教室の机といすも足りなくなった時が数回ありました。

2024年度は、母国で中学校を卒業後、ダイレクトで日本の高校に行きたいという人に対し、子ども支援の教室と連携をして学習機会を増やしました。十代の人にとって自分を支えてくれる人が多くいることは心強く感じているでしょうし、ボランティアにも若い外国出身者の現状を目の当たりにして日本社会を考える機会になっていると思います。

ウクライナ避難民のための日本語クラスは3年目を終了しました。日本での生活にも馴染んできたようです。N2合格者も出ました。語学の習得が難しい年齢の人も、安心できる教室環境の中、大分日本語での発話が増えてきました。時々、突然に誕生日会が始まり、ウクライナケーキのパーティーになります。楽しいおしゃべりが異国で生きる力になっています。

・日本語学習支援

	レベル	内容	場所
水曜午前グループ 水 10:15～12:15	入門～上級	「生活日本語」 「入門・初級クラス」	ふたば国際プラザ
夜グループ 木 17:45～19:45	入門～上級	「生活日本語」	ふたば国際プラザ ハイブリッド
日曜グループ 日 10:15～12:15	入門～上級	「生活日本語」	ふたば国際プラザ

ウクライナ避難民クラス 水・木 13:00～15:00 ※上記以外も希望時間に対応	入門～中級	「生活日本語」 「入門・初級クラス」	ふたば国際プラザ オンライン
---	-------	-----------------------	-------------------

2024 年度 日本語学習者の国籍と参加人数

国籍（参加人数） 1 名の場合は国籍のみ表示
ウクライナ（15 名）、ベトナム（7 名）、中国（23 名）、ミャンマー（3 名）、ネパール（11 名）、インド（3 名）、台湾（2 名）タイ（3 名）、フィリピン（2 名）、カナダ（2 名）、ベルギー、ロシア、ブルガリア、インドネシア、ハンガリー、ニュージーランド、香港、イラン、モンゴル、フランス、バングラディシュ

II. 交流行事など

- ・5月29日（水） スピーチ会…参加者 26 名
- ・6月9日（日） たこやきパーティー…参加者 12 名
- ・9月29日（日） 遠足「神戸動物王国」…参加者 19 名
- ・10月27日（日） まちのぶんかさい試作会…参加者 18 名
- ・11月24日（日） ふたば学舎 まちの文化祭 屋台参加…参加者 23 名
- ・12月22日（日） 忘年お楽しみ会…参加者 28 名
- ・2月23日（日） ボランティア交流会…参加者 23 名

外国にルーツを持つ子どもの学習支援事業

今年度は、より多くの子どもの学習希望に応えるため、新たに元町で教室を始めることにしました。場所は神戸～元町周辺で探したところ、神戸市教育会館を定期的にお借りすることが出来ることになりました。夏休みに入ってから学習者募集を開始したため、学校が夏休みに入り広報が十分に行えず夏休みの参加は少なかったのですが、8月末から9月に入って、申込が増え、当初は支援者が不足していたことから、少し時間をずらして2部制で進めることにしました。引っ越しや旧正月などで、2月には少し人数が減りました。詳細は下記で報告します。

もう一つ、今年度新たに始めた事業は「高校生のフリースペース&カフェ」です。定時制高校の生徒には午前中や午後の早い時間に利用してもらえるように、普通高校の生徒には放課後利用してもらえるようにと、午前10時～午後8時まで利用できる時間を設けました。最初はなかなか利用がありませんでしたが、高校と連携が取れるようになり、3～4人の生徒が利用してくれるようになりました。日本語や数学などの教科を学習したり、小・中学生との交流会で、中国の火鍋やネパール料理を料理して提供してくれたりしました。

学習の休憩中にお菓子や飲み物の提供をすることやフードパントリーは継続し、お米、お菓子やレトルト食品などを提供しました。

夏休みには、「夏休み学習教室」として通常の学習時間以外にも学習できる日を9日間増やしました。普段は少し遠くに住んでいるためKFCまで通うことが難しい生徒が、夏休みの間だけ日本語学習のために通ってきました。最初はほとんど話せなかったのが、最終日には覗きにきてくれた先生と簡単な会話ができるようになって、子どもの成長の早さに先生もびっくりされていました。今年度は一緒に昼食を作るのではなく、お弁当を持参して、午前と午後少し学習し、一緒に遊ぶことも取り入れました。

2024 年度に通ってきた子どもの内訳は次ページの表の通りです。受験生の中学3年生6名とダイレクト生徒3名は、外国人生徒特別入試枠で2名が公立高校に進み、その他公立高校1名、定時制高校4名、私立高校2名に進学が決まりました。その他1名のフィリピン人生徒は中学校卒業後にフィリピンに帰

国し、フィリピンで高校進学することを選択しました。

今年度も支援者として、KFCで学習した経験のあるベトナムルーツ2名、インドネシアルーツ1名などの大学生が関わってくれました。同じような背景をもつロールモデルの存在はその下の世代にとってとても心強い存在となりました。それ以外に中国人・ベトナム人留学生の方などのご協力も得て、母語を活用した支援を行い、子どもたちも安心して通うことができました。

またこれまでと変わらず、安定した財源確保はまだまだ厳しく、また時期によっては支援者の確保も難しい状況です。

神戸大学、甲南女子大学、関西国際大学、関西学院大学、神戸学院大学などの学生の受入れも行いました。また神戸高校、甲南高校などの高校生も自主的に参加してくれました。

土曜日にはおやこにほんご教室の開催に継続して取り組みました。

昨年度から始めたSNSも活用した教育相談窓口は、学校からの手紙の理解や記入のサポートだけでなく、保育園、小学校、高校などからも多くのご相談いただきました。

〈元町教室〉

2024年7月に、神戸市教育会館の一室をお借りして「元町教室」を開設しました。赤い羽根共同募金の助成を得て、神戸市内でもっとも外国籍の子ども人口が多い中央区にも、日本語学習・教科学習ができる場所を増やしたいという思いから教室の立ち上げに至りました。

夏休み期間は、既にMOIで勉強している子どもたちのなかで、集中的な学習を希望した小中学生が通学しました。新長田からだと電車に乗らなければならず、電車の乗り方や、遠方へでかけることに自信がなかった子もいましたが、スタッフとの行き帰りを重ね最後には一人で通学できるようになりました。学校でも広報いただき、夏休み以降は生徒が急増しました。神戸市教育会館の周辺の学校からの問合せが最も多かったのですが、灘区や東灘区からも生徒が通っています。来日直後、来日後数年、日本生まれなど、日本での生活歴は多様です。勉強を頑張りたい、テストでいい成績をとりたいという前向きな思いをもつ一方、学習していない漢字や、複雑な教科の学習によってわからないことが増え、学習に身が入らなくなる子どももいます。中国語を話せる先生が手伝ってくださったり、宿題の取り組み方に一工夫するなど、学習での「できることが増えた」感覚と、友達や先生と話す楽しい時間をつくることの双方を目指しています。年末には、開設当初からボランティアをしてくれていた甲南高校の生徒がお楽しみ会を開催してくれました。普段は交わらない子どもたちが自然に触れ合い、楽しい時間をすごすことができました。ダイレクト生も1名通学し無事高校に合格しました。

中央区に位置することで、中央区の子どもに加え、東の方からも生徒が通学できています。週に1回の短い時間ですが、子どもが少しでも苦手を克服し自信をもって生活できるよう、これからも日々工夫しながら教室を続けていきたいと思っています。

I. 日本語・教科学習支援活動

「MOI」(新長田教室)

小学生 水・木 16:00～18:30 土 10:30～12:00 中学生 水・木 18:00～20:30

所属別	新長田 (MOI・おやこにほんご)	元町
小学校	44	12
中学校	18	3
不就学・ダイレクト	1	1
高校生	2	0

(保護者)	(6)	0	※プレスクールは除く () 内は保護者
合計	65+ (6)	16	

ルーツ別	MOI	元町	プレスクール (Moi)	プレスクール (保育園)	合計
ベトナム	16	0	0	3	19
中国	19+ (2)	12	1	4	36+ (2)
台湾	2	1	0	0	3
ミャンマー	2	0	0	0	2
フィリピン	7	0	0	1	8
タイ	4+ (3)	0	1	0	4+ (3)
タジキスタン	1+ (1)	0	0	0	1+ (1)
ロシア	2	1 (キルギス)	0	0	3
インド	0	0	1	0	1
ネパール	8	0	0	0	8
ウクライナ	1	0	0	0	1
韓国	1	0	0	0	1
アメリカ	1	0	0	0	1
アルジェリア	1	0	0	0	1
ブラジル	0	0	0	1	1
イギリス	0	1	0	0	1
モンゴル	0	1	0	0	1
合計	65+ (6)	16	3	9	93+ (6)

Ⅱ. 外国にルーツを持つ小学校入学前の子どものプレスクール事業

今年度も保育園内でのプレスクールを、10月末に語彙チェックを行い、11月から実施しました。今年度は、保育園に外国にツールをもつ子どもが非常に多く、公立の小学校へ進学する子どものみを対象として実施しました。

1月からはMOIでのプレスクールも開催しました。今回は参加者が限られたこともあり、ひらがなの習得や日本語語彙を増やすこと、先生の指示がわかるようになることなど丁寧に指導することができました。

実施日 : 2024年10月～2025年3月までの火曜日 13:15～14:45 開催(全17回)

実施体制: 講師1名、ボランティア1名、スタッフ1名

会場 : 神視保育園

参加者 : 9名(中国4名、ベトナム3名、フィリピン1名、ブラジル1名)

実施日 : 2025年1月11日(土)～3月22日(土)までの土曜日開催(全11回)

実施体制: 講師1名、ボランティア2名、スタッフ1名

会場 : こうべプレスクール(MOI)

参加者 : 3名(中国1名、インド1名、タイ1名)

Ⅲ. イベント、研修会等

- ・12月21日（土）おやこにほんご教室の料理交流会
- ・12月26日（木）甲南女子大学の野崎ゼミによる年末お楽しみ会

V. 学生、学校などの受け入れ

・6月～1月	甲南女子大学野崎ゼミの行動演習プログラム	9名
・通年	神戸大学国内プログラム	5名
・6月～	小林聖心女子学院生徒	11名
・8月	神戸学院大学サマーボランティア受け入れ	2名
・1月～3月	関西学院大学フィールドスタディで学生	1名
・1月～	神戸大学国際人間科学部 GSP プログラムの学生	4名
・1月～3月	関西国際大学学生受け入れ	2名

在日外国人児童読書の会

2024年度は読書の会が本来の形に戻りました。ベトナム語の読書、子どもたちによる紙芝居、図書館のスタッフによる本読み、日本とベトナムの遊びという流れです。

今年度、高学年児童の参加がほとんどありませんでした。この状況に対して、昼休みに開催する等の増員対策を話し合った結果、これまで通りの時間開催になりました。

グローバル出張読書の会				
期間	場所	時間	スタッフ	参加数
2024年5月21日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	3	9
2024年6月18日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	2	8
2024年9月17日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	4	7
2024年10月24日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	4	9
2024年11月19日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	3	11
2025年1月14日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	3	11
2025年2月18日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	6	13

ふたば国際プラザ

今年度は、ふたば国際プラザの来館者数は昨年度に続き、年間で連続1万人を超え、昨年度を大きく上回りました。これは、KICC やふたば学舎、地域団体との連携を強めた結果であり、各事業への参加者数も増加しました。運営開始から6年目を迎えた今、地域における認知度は一層高まり、ボランティア希望者からの問い合わせも増え、地域に根ざした多文化共生の拠点として定着しつつあります。

また、昨年度に引き続き、ウクライナからの避難民支援にも取り組んでおり、生活支援や相談対応など、支援の窓口としての役割を果たしています。委託事業と自主事業の両面から、生活に必要な情報提供、日本語や他言語の学習支援、多文化理解を深める学習機会や交流の場の提供に取り組み、来館者の「ニーズの実現」と「多様性の尊重、相互理解の促進」に向けた活動をさらに広げました。

事業実施にあたっては、関係機関との連携が不可欠です。KICC との定期的なミーティングを通じた情報共有や、ふたば学舎との共同事業の実施により、事業の質と効果を高めるとともに、地域における多文化共生の推進に貢献しました。外国人来館者への対応においても、わかりやすい情報提供と安心できる相談体制づくりに努め、多様な人々が参加しやすい環境の整備を進めています。

広報活動については、ホームページや SNS のほか、神戸市の広報媒体、地域団体の通信、メールニュースなど多様な手段を活用し、幅広い層への情報発信を行いました。ふたば国際プラザの活動内容や意義を伝えることで、より多くの人々に関心を持ってもらい、地域ぐるみでの理解と協力を広げています。今後も、誰もが安心して訪れ、つながることができる場として、ふたば国際プラザは「多文化共生」の拠点としての役割を果たしながら、さらなる発展を目指してまいります。

I 在住外国人支援

外国人住民生活ガイダンス事業

開催日時	内容	講師（職業等）	料金（円）	受講人数(名)
6 月 29 日	日本の賃貸住宅	永良(ふたば国際プラザ)	無料	4 (中国、マレーシアなど)
7 月 24 日	日本の健康保険制度	神戸市福祉局国保年金医療課	無料	15 (ウクライナ、ネパール、フランス、インド、イラン、ミャンマー、カナダなど)
7 月 27 日	日本の賃貸住宅	櫻木、曾根(ふたば国際プラザ)	無料	4 (中国（香港）、ロシア、など)
8 月 12 日	ごみの出し方	神戸市環境局業務課	無料	15 (ミャンマーなど)
11 月 30 日	自転車のルール	永良(ふたば国際プラザ)	無料	7 (中国、ロシアなど)
3 月 22 日	国民健康保険と任意保険について	オキーレ（ふたば国際プラザ）	無料	7 (中国など)
合計				51 (前年度比：▲66)

II 日本人と外国人の交流・相互理解事業

交流・相互理解事業

開催日時	内容	講師（職業等）	受講料金	受講人数(名)
5 月 11 日	相互理解講座①	萩原守 (神戸大学名誉教授・摂南大学教授)	無料	20
5 月 27 日	新長田フィールドワーク	金宣吉(K F C 理事長)ほか	無料	22
7 月 20 日	相互理解講座②	伊藤友美 (神戸大学教授)	500	15

8月11日	多文化 おばけやしき	櫻木晴日 (ふたば国際プラザ) 地域ボランティア、多文化交流員他	無料	142
9月7日	相互理解講座③	橘誠 (神戸大学准教授)	500	13
10月5日	相互理解講座④	轟蕙菁 (関西国際大学特任助教)	500	11
10月11日、12日	世界の遊び広場	櫻木晴日、イエン (ふたば国際プラザ)、 関西国際大学留学生、 地域ボランティア、多文化交流員他	無料	2,600
12月14日	相互理解講座⑤	加藤丈太郎 (武庫川女子大学専任講師)	500	13
1月7日	お正月あそび	志岐良子、永良、櫻木晴日、 奥優伽子(ふたば国際プラザ) 留学生ボランティア、多文化交流員	無料	20
2月15日	相互理解講座⑥	貞好康志 神戸大学教授	500	21
3月8日	相互理解講座⑦	萩原守 (神戸大学名誉教授・摂南大学教授)	500	17
3月23日	ええとこながた ～多文化をたのし もう～	永良、櫻木晴日 (ふたば国際プラザ)ほか 留学生ボランティア、多文化交流員	無料	51
合計				2,945 (前年度比： +375)

交流スペース(日本語学習スペース、会議スペース)の提供(登録活動数：累計のべ37件)*前年度比+2

月	利用内容	利用 活動数	利用 回数
4月	ウクライナ避難民日本語学習教室、日本語おはなし会、親子日本語教室、中国語交流会、英語交流会、日本語交流会、モンゴル語母語教室、ベトナム語学習、外国にルーツをもつ人々のパソコン教室、日本語学習会	10	41
5月	ウクライナ避難民日本語学習教室、日本語おはなし会、日本語学習会、親子日本語教室、中国語交流会、モンゴル語母語教室、外国にルーツをもつ人々のパソコン教室、英語交流会、日本語交流会、ウクライナ文化交流会、私たち日本にきました(ウクライナ・中国の紹介)、ベトナム語学習、多文化ひろめ隊養成講座と児童館との打ち合わせ、スタディーサークルで学びを共にする会	14	41

6月	ウクライナ避難民日本語学習教室、日本語おはなし会、親子日本語教室、日本語学習会、中国語交流会、英語交流会、日本語交流会、日本語レッスン、モンゴル語母語教室、外国にルーツをもつ人々のパソコン教室、映画交流会、生活ガイダンス、スタディーサークルで学びを共にする会、兵庫ミャンマーコミュニティ交流会、児童館派遣打ち合わせ	15	49
7月	ウクライナ避難民日本語学習教室、日本語おはなし会、親子日本語教室、ベトナム語学習、中国語交流会、英語交流会、日本語交流会、外国にルーツをもつ人々のパソコン教室、日本語学習会、日本語レッスン、モンゴル語母語教室、KFC 夏休宿題教室、生活ガイダンス、スタディーサークルで学びを共にする会	14	52
8月	KFC 夏休宿題教室、モンゴル語母語教室、親子日本語教室、ランタン絵付け、ウクライナ避難民日本語学習教室、日本語おはなし会、中国語交流会、英語交流会、日本語交流会、外国にルーツをもつ人々のパソコン教室、日本語レッスン、ベトナム語学習、生活ガイダンス、小中高フリースペース、多文化お化け屋敷、兵庫ミャンマーコミュニティ交流会	16	48
9月	ウクライナ避難民日本語学習教室、親子日本語教室、ランタン絵付け、中国語交流会、共生社会に向けたボランティア養成講座、英語交流会、日本語交流会、日本語レッスン、モンゴル語母語教室、日本語おはなし会、小中高フリースペース、多文化ひろめ隊養成講座と児童館との打ち合わせ、相互理解講座、ランタン実行委員会、ウクライナ文化交流会	15	39
10月	ウクライナ避難民日本語学習教室、親子日本語教室、ランタン絵付け、共生社会に向けたボランティア養成講座、英語交流会、日本語交流会、日本語レッスン、モンゴル語母語教室、日本語おはなし会、ベトナム語学習、小中高フリースペース、日本語教室ボランティア連絡会議、多文化ひろめ隊養成講座と児童館との打ち合わせ、相互理解講座、KOBE ランタン縁日 2024、日本語教室イベント、スタディーサークルで学びを共にする会、ウクライナ文化交流会	19	55
11月	ウクライナ避難民日本語学習教室、親子日本語教室、中国語交流会、英語交流会、日本語交流会、日本語レッスン、モンゴル語母語教室、日本語おはなし会、小中高フリースペース、兵庫県立大学新長田フィールドワーク、灘高校とウクライナ青年文化交流会、生活ガイダンス、まちの文化祭、スタディーサークルで学びを共にする会、ウクライナ文化交流会	15	39
12月	ウクライナ避難民日本語学習教室、親子日本語教室、中国語交流会、日本語レッスン、英語交流会、日本語交流会、モンゴル語母語教室、小中高フリースペース、日本語おはなし会、相互理解講座、灘高校とウクライナ青年文化交流会、ランタン実行委員会、日本語教室忘年会、スタディーサークルで学びを共にする会、三田学園とウクライナ避難民との交流会、小中高お楽しみ会	16	30
1月	ウクライナ避難民日本語学習教室、親子日本語教室、中国語交流会、英語交流会、日本語交流会、小中高フリースペース、日本語レッスン、モンゴル語母語教室、日本語おはなし会、灘高校とウクライナ青年文化交流会、フォーラム、お正月遊び、多文化ひろめ隊養成講座と児童館との打ち合わせ	14	36
2月	ウクライナ避難民日本語学習教室、親子日本語教室、中国語交流会、英語交流会、日本語交流会、小中高フリースペース、日本語レッスン、モンゴル語母語教室、灘高校とウクライナ青年文化交流会、日本語おはなし会、兵庫ミャンマーコミュニティ交流会、相互理解講座	12	36
3月	ウクライナ避難民日本語学習教室、灘高校とウクライナ青年文化交流会、親子日本語教室、中国語交流会、英語交流会、日本語交流会、小中高フリースペース、モンゴル語母語教室、日本語おはなし会、スタディーサークルで学びを共にする会、ええとこながた、生活ガイダンス、相互理解講座	13	37
	合計	173	503

		(前年度比: +28)	(前年度比: ▲19)
--	--	-------------	-------------

Ⅲ その他人材育成事業

○共生社会に向けたボランティア養成講座 全8回

開催日時	内容	講師（職業等）	受講料金 （円）	受講人数 （名）
9月8日	神戸に住む外国人の歴史と現状	金宣吉 （KFC 理事長）	3,000	8
9月15日	共生社会とは	山本晃輔 （関西国際大学）		5
9月22日	神戸市の地域ボランティアについて	神戸市地域協働局		6
9月29日	現場の話を聞いてみよう	櫻木晴日 （KFC スタッフ）		4
10月6日	ボランティア活動の紹介と体験	永良（ふたば国際プラザ スタッフ）		5
10月13日	共生社会に向けたボランティアとは	林貴哉 （武庫川女子大学）		6
10月20日	日本社会で生きる	フフデルゲル （KFC ケアマネージャー）		5
10月27日	活動の紹介と講座の振り返り	志岐良子（ふたば国際プラザ施設長）		4
合計				43 （前年度比： ▲7）

多文化ひろめ隊♪(在日外国人ゲストティーチャー)養成講座

開催日時	内容	講師 (職業 等)	受講料金	参加 講師数	参加 児童館数
5月25日	1. 小学生低学年向けの日本語表現 2. 興味をもってもらうための発表の仕方 3. 前に参加した人からのフィードバック	永良（ふたば国際プラザスタッフ）	無料	16	8
9月21日	1. 子どもに合わせた日本語表現 2. 興味をもってもらうための発表の仕方 3. 前に参加した人からのフィードバック	永良（ふたば国際プラザスタッフ）		32	16
1月25日	1. 子どもに合わせた日本語表現 2. 興味をもってもらうための発表の仕方 3. 前に参加した人からのフィードバック	永良（ふたば国際プラザスタッフ）		20	10
合計				68	34
				(前年比：+2)	(前年比：+1)

IV 留学生等を活用した国際理解教育事業等

開催時期	派遣講師数 (名)	出身国・地域 数	派遣児童館数
6月	16	7	8
10月	32	10	16
2月・3月	20	6	10

<派遣講師出身国・地域>

ウクライナ、内モンゴル、韓国、シリア、台湾、中国、ネパール、フィリピン、ベトナム、ポルトガル、ミャンマー、メキシコ、ロシア、トーゴ

KFC帰国者新長田交流会

帰国者の方々の高齢化の深刻化が進む中、安全に配慮しながら、充実した活動を提供できるよう取り組んでまいりました。特に「居場所」「健康維持」「社会参加」の役割を果たすことを大切に、交流会や日本語学習の機会を継続しています。今年の春ごろからは参加者が増え、再会を喜び合う姿が印象的でした。

一方で、高齢に伴う健康上の課題も増えており、持病の悪化や入院、さらにはお別れをする場面もありました。その中でも、できるだけ多くの方が無理なく参加できるよう、交流会の運営に工夫を重ねています。健康維持の観点からも、軽い運動を取り入れたり、生活に役立つ情報を共有したりすることで、心身の活力を保つサポートを行っています。

また、帰国者同士のネットワークが希薄になりがちな現状をふまえ、交流の機会を増やし、安心感を得られる場となるよう努めています。今後も、参加者の意見を取り入れながら、日本語学習や交流会の

内容を充実させ、誰もが安心して集える場を提供し続けてまいります。

1. 日本語学習

日本語学習では、参加者の皆さんの状況に応じて、さまざまな形式で授業を行ってきました。講義形式や自由な会話形式、選択式の会話形式などを取り入れ、柔軟に対応しながら進めています。学習内容についても、健康や介護予防、日本の社会習慣など幅広いテーマを扱い、問診票の書き方や医師とのやり取りといった実践的なスキルのほか、「今年の漢字」や時事問題にも触れることで、興味を引きながら学べるよう工夫しています。

また、参加者の年齢層が上がるにつれ、学習内容をしっかりと身につけるための工夫も重視しています。文章の音読を繰り返したり、同じ語彙を繰り返し学ぶことで、無理なく知識を定着させることを心がけています。さらに、ボランティアの皆さんと協力しながら、より理解しやすい学習方法を模索し、防災に関する授業では実際の防災グッズを見せるなど、視覚的な要素を取り入れることで学びを深めました。また、健康維持や介護、季節ごとの話題など、日常生活に役立つ内容を中心に学習を進めてきました。

2. 交流会

交流活動では、中国の文化的要素を活かした「太極拳」や「広場踊り」、足腰を鍛える「八段錦」などを実施しました。また、参加者の健康状態に配慮し、無理なく身体を動かせるよう、「イス体操」や「タオル体操」も取り入れました。これにより、健康維持を意識しながら、交流の場としても充実した時間を提供できました。

また、中国東北部の伝統踊り「ヤンガー」については、「神戸まつり」のパレードで発表する機会を得たため、交流会で練習を行いました。この機会をきっかけに、久しぶりに参加された方も多く、皆で練習を重ねながら準備を進め、無事に発表を成功させました。さらに、中国の広場踊りも練習し、ふたば学舎の「まちの文化祭」のステージプログラムで披露しました。

昨年度に続き、ふたば学舎の裏手の畑を借りて野菜の栽培も行いました。二世の方々の中には農業経験のある方もおり、一世・二世が協力しながらきゅうりや大根などを育てました。野菜作りを通じて生活に張り合いが生まれるとともに、畑作業が運動の機会にもなり、心身の健康維持にも良い影響を与えています。

さらに、交流会の実施にあたっては、国際看護科の学生の研修受け入れやボランティアの参加を促し、世代や国籍を超えた交流の場となるよう努めました。

3. 広報活動

広報活動については、ふたば国際プラザで切り絵作品や絵付けしたランタンの展示を行い、交流会の活動紹介を掲示することで、月間約 1000 名の一般来館者に情報を発信しました。特に、10 月に開催された「KOBE ランタン縁日」(来場者：約 6,000 名)や、11 月の「まちの文化祭」(来場者：約 3,800 名)では、帰国者の方々が切り絵を貼り付けたランタンや設置した展示が多くの来場者の目に留まりました。また、交流会のリーフレットを配布し、帰国者を取り巻く社会的背景や課題について地域の人々に周知しました。そのほか、「帰国者通信」の発行、KFC の会報「KFC ニュース」での情報発信、有隣通信など外部媒体への掲載を通じて、広報活動を積極的に行いました。

2024 年度 KFC 帰国者新長田交流会実施状況			
(日本語学習及び交流会)			
開催日	交流会	日本語学習	内容

	参加者 数	一世	二世	参加者 数	一世	二世	
4/2	19	5	14	19	5	14	日本語教室・交流会
4/16	15	5	10	15	5	10	日本語教室・交流会
4/21	23	8	15	23	8	15	神戸まつり
4/30	16	6	10	N/A	N/A	N/A	映画交流会
5/7	17	8	9	N/A	N/A	N/A	映画交流会
5/21	17	9	8	17	9	8	日本語教室・交流会
5/28	11	5	6	11	5	6	日本語教室・交流会
6/4	17	8	9	17	8	9	日本語教室・交流会
6/18	15	8	7	15	8	7	日本語教室・交流会
6/25	16	7	9	16	7	9	日本語教室・交流会
7/2	16	8	8	16	8	8	日本語教室・交流会
7/16	16	8	8	N/A	N/A	N/A	映画交流会
7/23	14	8	6	14	8	6	日本語教室・交流会
7/30	13	7	6	13	7	6	日本語教室・交流会
9/3	16	7	9	16	7	9	日本語教室・交流会
9/17	18	8	10	N/A	N/A	N/A	料理教室
9/24	15	7	8	N/A	N/A	N/A	映画交流会
10/1	17	8	9	17	8	9	日本語教室・交流会
10/11	13	7	6	N/A	N/A	N/A	KOBE ランタン縁日
10/12	12	6	6	N/A	N/A	N/A	KOBE ランタン縁日
10/15	13	6	7	N/A	N/A	N/A	映画交流会
10/22	17	8	9	17	8	9	日本語教室・交流会
10/29	18	9	9	18	9	9	日本語教室・交流会
11/5	14	5	9	N/A	N/A	N/A	映画交流会
11/19	18	9	9	18	9	9	日本語教室・交流会
11/24	15	5	10	N/A	N/A	N/A	まちの文化祭
11/26	18	9	9	17	8	9	日本語教室・交流会
12/3	15	6	9	15	6	9	日本語教室・交流会
12/17	13	4	9	13	4	9	日本語教室・交流会
12/24	13	4	9	13	4	9	日本語教室・交流会
1/7	16	7	9	16	7	9	日本語教室・交流会
1/21	18	9	9	18	9	9	日本語教室・交流会
1/28	18	9	9	18	9	9	日本語教室・交流会
2/4	15	7	8	15	7	8	日本語教室・交流会

2/18	14	6	8	14	6	8	日本語教室・交流会
2/25	15	6	9	15	6	9	日本語教室・交流会
3/4	14	6	8	13	6	8	日本語教室・交流会
3/18	15	6	9	15	6	9	日本語教室・交流会
3/25	13	5	8	14	5	8	日本語教室・交流会
合計	608	269	339	458	202	256	

KFC 帰国者明舞交流会実施状況

KFC 帰国者明舞交流会実施状況				
(日本語学習及び交流会) 会場：みなく～る明舞				
開催日	交流会	交流会	交流会	内容
	参加者数	一世	二世	
4/09	15	5	10	日本語学習・交流会
5/14	13	4	9	日本語学習・交流会
6/11	15	8	7	日本語学習・交流会
7/09	10	5	5	日本語学習・交流会
9/10	14	5	9	日本語学習・交流会
10/08	12	6	6	日本語学習・交流会
11/12	9	3	6	日本語学習・交流会
12/10	11	4	7	日本語学習・交流会
1/14	12	7	5	日本語学習・交流会
1/26	18	8	10	明舞地域交流会
2/11	15	8	7	日本語学習・交流会
3/11	11	4	7	日本語学習・交流会
計	155	67	88	

IV. 相談事業

2024 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく減少しましたが、中国残留邦人帰国者の皆様は高齢の方が多く、引き続き感染症対策を徹底してまいりました。高齢化の進行に伴い、日常生活に関わる携帯電話や社交アプリの使い方など以外、健康管理や医療に関するニーズが年々高まっており、手術や通院、持病の管理、介護に関する相談が増加しています。特に、独居の方や家族との同居が難しい方々の生活支援が重要な課題となっています。

KFCでは、これらの課題に対応するため、個別のサポートを強化し、ケアマネージャーや福祉関係機関との連携を深め、迅速かつ適切な支援を行ってまいりました。具体的には、定期的な健康相談や生活支援の充実を図り、医療機関への同行支援、福祉サービスの利用に関するアドバイス、通訳サポートなど、多岐にわたる支援を実施しました。また、高齢者の皆様が孤立することなく、地域社会とのつな

がりを持てるよう、健康状態に配慮しながら交流活動への参加を促し、社会的な孤立を防ぐ取り組みも進めてきました。

公益財団法人中国残留孤児援護基金の助成により、今年度も支援者による定期的な個別相談や相談対応を継続することができました。特に介護の専門家であるケアマネージャーとの連携を強化し、より専門的かつ迅速な対応を心がけました。加えて、帰国者の方々の中には高齢になっても積極的に人との交流を求める声も多く聞かれるため、健康状態を考慮しつつ、文化活動や地域のイベントへの参加を促すことで、少しでも充実した日常を送っていただけるよう努めました。

今後も、一世世代のみならず、二世世代においても高齢化が進んでいるので、お一人おひとりの状況を丁寧にフォローしていくことが求められています。日本社会における安定した生活の確立と、精神的な安心を提供できるよう、関係機関と連携しながら、支援団体として最善を尽くしてまいりたいと考えております。

デイサービスセンターハナの会（通所介護事業）

2024 年度もデイサービスセンターハナの会は、在日コリアン・日本・ベトナム・中国という多様な文化をもつ利用者の民族性に配慮したサポートで居場所作りに取り組んできました。新規利用者は、年間を通じて 14 名ほどでした。様々な感染症が流行する中で、外国人高齢者に対して価値あるサービスをどのように提供するのかについて内容と実践が問われる年でした。

このような中で、利用者が在宅生活を長く送るために、個別機能訓練や手先を使うレクリエーションの充実化を図るために主体的に日々努力してきました。また、認知症や医療的なサポートが必要な利用者の受け入れについて多く学び、ケアマネージャーや家族、医療機関との連携の重要性を実感した一年でした。行事開催については、夏祭りや敬老会、合同クリスマス会での交流などを通じて利用者の楽しむ場を造成することができました。

昼食提供については、韓国料理とベトナム料理を安定して介護度に合った形態で提供することができ、入浴も安全に提供することができました。様々な感染対策においても、日常的に看護師を中心に対策を探りながら取り組んできました。

一方、在宅での自立生活が困難になり、施設入所やお亡くなりになる方がいたなど、デイサービス利用を中止せざるを得ない状況もあり、利用率が上がらず売上げは低迷しています。新規受入れについては、外部ケアマネより数名の紹介を頂きましたが、さらなる新規利用獲得のために、広報誌を作成することはできませんでしたが、積極的な訪問活動ができませんでした。

こうした中、スタッフ全体で利用者に寄り添ってサポートしてきました。医療的なサポートを必要とする方も多く、随時対応を行い、ケアマネージャーや家族と連携しサポートのあり方を探っていきました。その中で各自が状況に合わせて役割を果たすことができ、一日のプログラムを規定できるチームワークを造成することができました。また、ヒヤリハットを積み重ねて事故防止に努め、安全で安心できる場づくりに励みました。

研修では、NGO コリアセンターに案内を依頼し、古くから多くの韓国朝鮮人が多く住む大阪の鶴橋をスタッフで訪れ、地域の様子や暮らしをともに学びました。また、ハラスメントの防止に関する規定などについて、継続して学んだこともスタッフにとって意義あることでした。

看護実習生の現場の受け入れプログラムは、大手前大学と関西国際大学の看護実習や大学教員のフィールドワーク、大学生のフィールドスタディなどを数件受け入れる中で、ハナの会の社会的な意義や価値も感じるすることができました。

今後、利用者増員のための努力に加え、マイノリティコミュニティ団体や地域ボランティアなどとも協力を深め、利用者が充実した在宅生活を送ることができるよう、スタッフ一丸となってサポートしていきたいです。

	要支援延べ数	要介護延べ数	延べ利用者数	一日平均
2024年4月	54	174	228	8.8
2024年5月	44	173	217	8.0
2024年6月	57	168	225	9.0
2024年7月	68	192	260	9.6
2024年8月	67	161	228	8.4
2024年9月	63	148	211	8.4
2024年10月	59	157	216	8.0
2024年11月	59	175	234	9.0
2024年12月	59	158	217	8.3
2025年1月	59	134	193	8.0
2025年2月	58	153	211	8.8
2025年3月	54	169	223	8.6
年間	701	1962	2663	8.6

ハナ介護サービス（居宅介護支援事業）

ケアマネジメント実績件数（単位：件）

月	1/3 支援 1	1/3 支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計	支援 0.5 換算
4 月	6	20	28	11	3	8	3	79	63
5 月	5	22	27	13	4	8	3	82	63.3
6 月	5	23	27	14	4	7	4	84	65.3
7 月	6	24	30	13	4	8	4	89	69.0
8 月	6	23	30	13	3	9	4	88	69.6
9 月	7	22	30	11	2	11	4	86	67.6
10 月	9	21	30	12	2	11	4	89	69.3
11 月	9	22	24	13	2	10	4	89	69.0
12 月	10	21	31	11	4	10	3	90	69.3
1 月	11	22	25	15	4	12	3	92	70.0
2 月	11	21	27	18	4	12	3	96	72.3
3 月	11	19	28	16	6	11	5	96	76

2025 年 3 月時点担当数： 酒井ケアマネ 42（支援 7 介護 35）換算 37.3 名

フフケアマネ 54（支援 23 介護 31）換算 38.6 名

- ・上記表から読み取れるように、2024 年度も 2023 年度に続き、利用者数がケアマネ個人の受け持ち数の上限に迫る勢いで急増傾向です。年度末には外国人の利用者でも要支援の利用者については地域のあんしんすこやかセンターへ依頼し戻す方向で、コミュニケーションサポーター等制度を使いサポートをする側に回る方向で調整している状況です。
- ・3 月末実績時点利用者様ルーツ別では、日本人 38 名、コリアン 20 名、ベトナム人 15 名、中国残 13 名、華僑 8 名、インド 2 名であり、文化的背景が多様な状況となっています。また、独居 38 名と家族による支援が限定的で、生活保護受給 47 名であり、経済的に厳しい利用者様が多い状況です。

コミュニケーションサポート事業

<概要>

- ・サポーター派遣に伴う利用者（介護保険を利用される方）の費用負担はなく、1人につき、年に4回まで利用することができます。
 - ・通訳派遣・サポーター養成だけでなく、言葉や情報の壁の為に制度を利用することができず、必要な日常生活支援が得られないという状況が改善できるよう、今後も本事業の実効的な運用に努めたいと考えています。言葉が通じる者が定期的に訪問することで信頼関係が構築できると考えます。
- 神戸市の枠の中での運用となり、介護保険との併用利用では、年4回の制限では厳しい状況は変わらず、昨年にも回数を増やせないかと問いかけましたが、回答得られませんでした。

サポーター等の充実

- ・サポーター研修はコロナ明け以降開催できておらず、今年度も課題といたします。

今後は各団体の自主開催となりますので、法人で主催していくことになります。

- ・次年度より、コミサポ責任者も変更していく予定です。

<利用状況>

年間 53 件

ハナ介護サービス（訪問介護事業）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	36	34	34	36	38	38	41	40	41	43	46	42

現在の契約者数は50名です。ルーツの内訳は、コリアン、ベトナム、日本、華僑、中国帰国者関係、インドです。要介護は38名、要支援は12名です。最近、要介護者が増える中、身体介護の高技術が求められており、対応に困難なケースが多くなっています。

訪問介護部門は、3人の職員と登録ヘルパー7名で活動しています。スタッフは、常にスキルアップが求められていますが、その成果として、サービス提供責任者である中国ルーツのスタッフがこの度、ケアマネジャーの資格を取ることができました。中国ルーツの利用者が増える中、専門知識を持ったスタッフが対応できることは、多文化に配慮したサービス提供の可能性が広がり、意義深いことです。

福祉有償運送

2024年度に派遣した回数は前年とほぼ変わりありません。小規模の事業ですが、引き続き無事故・無違反であるように努めたいと思います。

年月	利用回数	利用者数
2024年4月	8	4
2024年5月	20	7
2024年6月	11	7
2024年7月	16	11
2024年8月	10	5
2024年9月	9	6
2024年10月	9	5
2024年11月	12	6
2024年12月	12	5

2025 年 1 月	15	4
2025 年 2 月	8	5
2025 年 3 月	5	5
計	1 3 5 回	7 0 人

グループホーム（認知症対応型共同生活介護）ハナ・小規模多機能型居宅介護ハナ

<各課題についての成果>

【重点課題】

I、研修など学習機会の確保と、事例検討会を開催します。

- ・感染対策、災害対策のBCPの作成を行います→作成を行い、会議を2回開催しました。
- ・法人だけでなく、小規模多機能型施設やグループホーム、あんしんすこやかセンター、医療介護サポートセンター、区役所の各部門と連携します
→グループホーム専門部会が再開し、交流ができるようになりました。また、小規模多機能型居宅介護連絡会は、上半期は2回しか参加できず、市町村独自加算のⅡが算定できませんでしたが、下半期は4回参加し、2025年度4月から元の通り、Ⅰ，Ⅱが算定可能になりました。
- ・地域の民生委員、保育園、学校などとのつながりを再度構築します。
→コロナ前と同様、こぐまの森の園児との交流が再開しました。民生委員とは、個別のケースを通じて、顔を合わせることはありますが、積極的にかかわっているとは言い難い状況です。

Ⅱ、職場力を高めます

1、情報の共有化ができ、何でも相談しあえる職場作りを目指します

- ・フロアー会議を中心に、リーダー会議、職員会議など、職場でのミーティングの時間を増やし、職員の意見が反映されやすい環境を作ります。
- ・サービス担当者会議を定例化し、事例検討を行えるようにします。
→リーダー会議、フロアー会議の毎月開催が困難でした。ミーティングレベルでは、毎月行えています。職員会議は、一度も行えませんでした。
→グループホームのサービス担当者会議の開催を定例化できませんでした。

2、職員の育成に努めます

- ・海外ルーツの利用者が増えたが、歴史的背景を知らずに介護を行っている面があります。在日コリアン、中国帰国者、ベトナム難民、華僑など、様々なルーツの高齢者の背景を知るような学習会を行います。
- ・職場のある長田区の町や産業を知る学習会の開催と、必要時は地区踏査を行います。
- ・直接介助である食事、排泄、入浴等の介助や、生活支援である調理、洗濯、掃除等における方法や手順のハナでのマニュアルを作ります。すべて介護には、その手順、方法で行う理由があります。それを理解したうえで、日々の介助や生活支援を行い、新しい職員にも指導できる様にします。
- ・新人職員教育について、夜勤に入るまでに、ここまではクリアするなど、目処をたてて指導できるようにします。
- ・2年目以上の職員について、無資格者には実務者研修、有資格者には勤続年数に応じて、認知症介護実践者研修や認知症介護リーダー研修、及び、その他外部研修への参加を支援し、高齢者介護、認知症介護等の基本を理解し、実践ができる職員を育成します。
- ・高齢者の生活の場であり、ターミナルケアまで行う施設として、医療との連携を行う。終末期の意向確認や入退院連携シートの作成等を通じ、見通しが持てる職員の育成を行います。
→ルーツに応じた学習会は、講師依頼をしましたが、実現に至りませんでした。

新人職員の育成について、外国人職員が多く、言葉の壁もあり、困難でした。研修については、虐待研修で初めて、外国人職員用の資料を作成しました。

→実務者研修を2名受講しました。

→認知症介護リーダー研修等は受講できませんでした。

→介護福祉士の資格試験を3名受験し、1名合格しました。

3、日課の充実

・利用者の意欲を引き出す行事やレクリエーション、体操、生活リハビリの企画、実践に努め、それができる職員を養成します。

→コロナも明けたため、少しずつ、行事を元に戻していきました。普段から、レクリエーションや体操を行うようにしましたが、職員による部分もあり、統一的には行えなかったです。もう少し、工夫が必要だと感じています。

Ⅲ、家族や地域とのつながりを再構築します

1、居室での面会の再開と、外出、外泊の再開、地域での活動参加を目指します。

2、運営推進会議の実施、地域の自治会、民生委員の参加を引き続き呼びかけていきます。

→1は実現しました。

2については、隣人が民生委員をされていましたが、引っ越しをされてから、付き合いがなくなってしまいました。運営推進会議には、家族であり、地域住民という方は参加いただいています、それ以外に、広がりはありませんでした。

Ⅳ、各部署別の方針

1、小規模多機能型居宅介護ハナの経営方針

・感染症によるクラスターを防ぎ、安全に運営ができるようにします。

・上半期は登録件数22件を目指し、下半期は、常に22件以上の登録を維持し（最大件数24件）、安定的な運営を目指します。

・宿泊について、常に4室は利用者がいる状態を維持できるようにします。

・常勤の看護師の配置をし、医療行為が必要な利用者でも、一部対応が可能ないようにします。

・可能な限り、訪問を強化する体制にシフトし、訪問件数200件／月以上を目指します。職員体制を整え、訪問体制強化加算(1000単位)を算定します。

・通い利用者の認知機能、身体機能向上のための、プログラムを作ります。

・ケアマネジャー3人体制を確立し、ケアマネジメント部門を強化します。

→4, 5, 7月に職員の感染症罹患がありましたが、感染症によるクラスターを防ぎ、事業を継続することが出来ました。

・登録件数が20～21名で推移し、一時、22名まで増えてましたが、下半期に入り、施設入所や入院が多く、定員が20名に下降、そのまま、新年度を迎えています。

宿泊は、上半期は、毎日4～5名程度で稼働しましたが、11月以降、3～4名となり、3月は入院もあり、1～2名の宿泊の日も多く費用対効果でいうと、マイナス面もありました。

・常勤の看護新配置はできませんでした。3名の看護師で、ハナの会からの応援で、週に4日程度をカバーしてもらっている為、看護師の配置加算は未算定です。医療依存度の高い利用者の受け入れは難しい状況です。ただ、今年度は、利用者が一時期、バルーンカテーテル留置の状態になり、その対応を看護師、主治医の協力のもと行い、現場としても、勉強になったと感じています。

・訪問件数は月200回を超えていますが、訪問算定強化加算の算定は、人員配置が伴わず、算定出来ませんでした。

・ケアマネジャー3人体制となりましたが、件数を分け合えてなく、今後の課題です。

2、グループホームハナの経営方針

- ・感染症によるクラスターを防ぎ、利用者の安全と健康を守ります。
 - ・利用者にやさしく接し、丁寧な接遇ができる職員を育成します。
 - ・利用者の健康維持、ADLの維持に努め、利用者の異常の早期発見から、医療と連携し、前年度に続き、平均在室者を17名以上にすることを目指します。
 - ・ケアマネジャーの専任性など、介護業務と分離、独立して業務を行える体制の構築など、ケアマネジメント部門の強化に努めます。
 - ・利用者の健康維持、認知機能の維持のため、体操や生活リハビリ、日課を充実させます。
- ・3階で、インフルエンザの職員2名、利用者2名が出ましたが、それ以上広がることなく終息しました。利用者様も体調が回復し、元の生活に戻っています。
- ・接遇面で問題がある職員について、他の職員からも声がかかるようになっていきます。面談の場や、気になった時は直接伝えていますが、研修の場を設ける必要を感じています。
 - ・利用者のADLの低下、心不全など重篤な疾患の発症など、全体的にレベル低下が著しい1年でした。早期発見、早期受診ができず、症状の悪化も見られたため、必要時は、医療へのアプローチを強く行っています。入院が重なったりありましたが、平均、17室以上で稼働出来ました。
 - ・ケアマネジャーの専任性については、取り組むことが出来ませんでした。

その他

I. 「多文化共生」を考える研修会 2024

2024年度も様々な地域で活躍されている方にご登壇いただき、オンラインで研修会3日、対面での研修を1日開催しました。対面での開催は参加人数が減ってしまいましたが、一人ひとりラップを作り、発表する講座は参加者には好評でした。ラップは参加にハードルを感じる方もいらっしゃったため、タイトルの付け方など今後はより工夫が必要だと感じました。昨年度の反省を生かして申し込み受付人数を増やしましたが、やはり当日参加されない方も一定数いるため、より工夫して参加受付していきたいと思っています。

・開催日・内容・参加者数一覧

8月19日(月)【総論～エンタメのカ～】(ZOOM)		
13:05～14:30	「映画を通して日韓をつなぐ」 成川彩(韓国在住映画ライター)	80名
14:45～16:15	「移民・マイノリティと世界の映画」 山本薫子(NPO 法人移住者と連帯する全国ネットワーク (情報誌「Migrants Network」編集担当)／東京都立大学教員)	
8月21日(水)【外国にルーツをもつ子どもの教育】(ZOOM)		
13:00～14:30	「『外国ルーツの子どもたち』支援を軸とした多文化都市再生のための実証調査報告」 佐々木祐(神戸大学教員)	89名
14:45～16:15	「外国ルーツの高校生を取り巻く現状と課題～それぞれができることを考える～」 海老原周子(一般社団法人 kuriya 代表理事)	
8月23日(金)【入管法をめぐる課題】(ZOOM)		

13:00～14:30	「入管法に設けられた『補完的保護』について」 安藤由香里(富山大学教員)	96 名
14:45～16:15	「日本の難民申請と審査の課題」 渡邊彰悟（全国難民弁護団連絡会議代表）	
8月26日（月）【当事者の発信】（対面開催）		
13:00～14:30	「当事者研究を『多文化共生』に位置づける必要性」 南誠（梁雪江）（長崎大学教員）	43 名
14:45～16:15	「ルーツをラップでシャウトしよう！」〈参加型講演〉 FUNI（郭正勲）（ラッパー）	

II. 調査研究事業

笹川平和財団の助成を受けて実施している「新人流時代の共生社会モデル構築事業」の3年目となる2024年度は、「共生社会を創ることばを紡ぐプロジェクト」を実施しました。1・2年目の調査・事業結果から見いだされた、「多文化共生」施策推進者とエスニックコミュニティや当事者をつなぐ人の育成を目指しました。

活動の大きな柱は、①インターンシップ生の採用、②行政との定期連携、③若者育成でした。①では、2023年度より学習支援でボランティアとして関わってくださっていた方に声をかけ、インターンシップ生として約1年間事業を担ってくれました。行政との対話、地域での活動、若者育成事業の実施など多様な場に関わり様々な力を身に着けながら共生社会の実現方法を考えてくれました。②では、神戸市地域協働課、(公財)神戸国際コミュニティセンター(KICC)と3者合同での意見交流を行いました。それぞれの問題意識と取組、今後の課題などを共有しながら、昨年度提示した提言書の実現に必要な事柄を協議しました。③若者育成は、共生社会を願う18歳から20代の若者が、4回の合宿への参加とフォーラムの企画運営をしました。一般応募の結果、定員を超える方からの参加申込があり、選考を経て10名でスタートしました。学業や仕事の都合、思いの相違などで継続が困難になったメンバーもあり、最終的には7名とインターンシップ生の計8名でフォーラムの日を迎えました。共生社会の実現を目指す仲間との出会い、歴史的なことの学び、対話しながら学びや思いを深める時間は、自分が望む社会像に向けて学び行動をし続ける力を得るエンパワーメントにつながりました。

事業成果として、2024年度の事業内容や参加者の声、2023年度フォーラムをまとめた報告書を作成しました。多くの方が報告書作成に力を貸してくださいました。

III. 生活相談

新型感染症は、社会的アクシデントが起こった際、外国人住民がセーフティーネットから漏れやすい状態にあることを鮮明にしました。情報を得られる場所、非常時に相談できる場所を、日ごろから形成しておく必要があるという問題意識から赤い羽根共同募金の助成金を得て2023年10月より活動を行っています。2024年度は特に、住民数が増えており、個々のつながりは強固であるもののグループをまたぐコミュニティが神戸近郊にないことが明らかになったミャンマーのコミュニティづくりと情報発信を行いました。2024年度中には、コミュニティのSNSの活用、3回の交流会を実施しました。SNSの登録者は200名を超え、交流会にはのべ92名が参加しました。これらは神戸市で長く暮らすミャンマーの方が中心となり活動を展開してくださいました。交流会のなかで見いだされた、就労先の見つけ方、応募の仕方等の仕事に関することや、急遽転居が必要になった際の居住支援体制の課題について、新たに取組を開始しています。

IV. K O B E ランタン縁日 2024

○実施日：10月11日(金)、12日(土)16:30-20:00

*大正筋商店街のランタン点灯は10月4日(金)～10月12日(土)

○会場：ふたば学舎、ふたば国際プラザ、大正筋商店街(KICC、WACCA、コミュニティハウス、七福を含む)、新長田大橋地下道、神戸生活創造センターおよび周辺地域

○来場者数：2,600名(ふたば学舎の親子縁日の来場者数)

外国人住民、子どもたちや地域の住民たちが手掛けたおよそ1200個のオリジナルランタンを展示し、ふたば学舎の親子縁日だけで2日間で2,600名の来場者がありました。親子縁日ではスーパーボールすくい、割りばし鉄砲、世界の遊び、千本引きなどふたば学舎のノウハウやネットワークを活かして多くの方々の協力を得て子どもたちが楽しめるゲームを多数用意しました。またステージ企画ではチンドンの演奏やマジックを披露頂いた他、モンゴル語の母語教室の子どもたちによる演奏やウクライナ、ベトナムの民族舞踊などを行いました。KICCでもスペイン祭や神戸学院大学ボランティア部による子ども遊びを企画して頂いたり、大正筋商店街の店舗で金魚すくいを出して頂いたり、そしてそれらに満遍なく人が行くように会場マップとスタンプラリーを準備したりして、連携や工夫を行いました。そして、地域の店舗や団体・個人の協力を得て大正筋商店街で韓国、ベトナム、モンゴル、ブラジル、ウクライナ、インド、中国、ネパール、イタリア、タイなど世界各国の屋台とふたば学舎前では綿菓子や鹿の骨工作などを出店しました。

ボランティアとしては神戸学院大学、日本経済大学、流通科学大学、灘高校、須磨翔風高等学校、甲南高校の学生、多文化交流員や社会人計のべ約100名に手伝って頂きました。学生たちの間の交流、学生たちと社会人、地域子供たちとの交流もできたと思います。

V. 第二創業事業「ばいゆー 地域をつなぐ共生社会へのWebサイト」(2021年10月開設)

2024年度は、在日留学生による、在日外国人定住者の生活に役立つ情報や相互理解・協働に関する内容を多言語で発信することに注力し、継続的に記事の執筆を行いました。また、KFCやふたば国際プラザで展開している各種事業や生活ガイダンス、ランタン縁日、ウクライナ避難民支援活動などの情報を、利用者にとって有益な記事として掲載することを意識しました。

また、「FRONT RUNNER」シリーズをばいゆー内の相互理解の枠に投稿することで、定期的な情報更新が可能となり、閲覧数の向上にもつながりました。

今後も、既存の事業を補完しながら、多言語による情報発信を通じて、支援・相互理解・協働の輪をさらに広げていけるよう取り組んでまいります。

<2024年度投稿記事数>

役立ち情報：19 相互理解：23 協働：5

VI. ぐるりぶらりスタンプラリー in 新長田 景品交換所設置

神戸市都市局地域整備推進課が主催する「ぐるりぶらりスタンプラリー in 新長田」において、ふたば国際プラザが景品交換所を担当しました。

○実施日：11月30日(土)～2025年2月28日(金)

○景品交換期間：2024年11月30日～2025年3月16日 10:00～17:00

○交換場所：ふたば国際プラザ

○内容：このスタンプラリーは、新長田南エリア周辺の魅力的なスポットを巡ってデジタルスタンプを集め、景品と交換する取り組みで、地域活性化と回遊促進を目的としたものです。集めたスタンプの数に応じて、長田のソウルドリンク「アップル」、下町の味「牛すじばっかけ」、そしてご当地の味を彩る「甘口とんかつソース」が提供され、多くの来館者に喜ばれました。プラザとしても仕入れ・交換対応を通して、地域との連携を深める貴重な機会となりました。

VII. ウクライナ避難民支援事業

日本での生活も3年目を迎えました。支援対象世帯・人数は大きく増減することなく、安定した生活を送っている方が多いと感じています。2024年の前半には、避難当初から日本語をしっかりと学んできた若い世代の方々が就職や進学により神戸から他府県へと移られました。その他の方々も引き続き日本語を学んでおり、日常生活で困ることが少なくなったという声が聞かれるようになっていきます。また、地域の方々や学生たちとの交流の機会も多く、地域社会に馴染みながら生活している様子が伺えます。このような交流が、より一層自立した生活の支援となり、今後の生活に対する安心感を高める一因となっていると感じています。

2023年12月に始まった「補完的保護対象者」認定制度を利用し、定住者ビザに切替えた方は2025年3月までに59名に上っています。申請中の方も含めると、69名の方が日本での長期的な生活を望んでいることになります。今後は、これまでの各種支援が終了し、定住者の方々にとっては就労が重要な課題となります。特に、働く意欲がありながらも職を得られない方々への支援が求められています。そのため、他機関や企業と連携し、就労支援を強化していく必要があります。就労支援を通じて、定住者が自立した生活を送るためのサポートを引き続き行っていきます。一方で、働きたくても働けない高齢者などは不安が大きくなっている傾向があり、生活保護など社会のセーフティーネットを活用する方法についても案内できるよう準備を進めているところです。

支援内容

委託事業

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数
支援世帯	44	78	43	74	42	73	42	73	42	73	43	73	43	73	43	73	43	73	43	73	43	73	43	74
日本財団	40	72	39	68	37	66	37	66	37	66	37	66	37	66	37	66	37	66	37	66	37	66	37	66
HIA支援金	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
就労者数	-	41	-	41	-	42	-	36	-	34	-	34	-	34	-	34	-	34	-	35	-	36	-	37
住宅更新	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	2	-	1	-	2	-	2	-	-	-	1	-	1	-
相談内容別件数	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
在留関係	6		0		3		1		3		1		2		6		1		0		1		2	
出入国関係	1		1		1		2		1		0		0		0		0		0		0		5	
通訳・翻訳	7		11		10		13		9		8		6		4		4		7		1		7	
日本語学習	0		1		1		3		1		2		1		1		0		0		0		2	
教育	3		1		4		1		0		2		3		0		0		3		5		1	
医療	4		4		6		1		3		3		2		6		1		2		3		0	
社会保険・年金等	4		3		6		4		2		2		4		2		2		4		2		6	
雇用・労働	5		1		2		5		1		2		3		5		2		1		2		4	
住宅	3		5		13		6		6		4		3		4		1		4		1		3	
その他	7		15		5		11		7		3		6		4		5		5		5		7	
件数	40		42		51		47		33		27		30		32		16		26		20		37	

◎在留関係 在留資格の更新・補完的保護対象者認定申請

◎出入国関係 出国・一時帰国に関する相談

◎通訳・翻訳 手紙や公的文書の翻訳

◎教育 公立校・インターナショナルスクール・日本語学校 入学手続き等支援

◎医療 医療機関の受診相談、電話での通訳支援

◎社会保険・年金等 区役所での手続き支援

◎雇用・労働 就労相談・ハローワーク等同行支援

◎住宅 公営住宅入居手続き・更新手続き支援

◎その他 在留資格更新・変更に伴う手続き支援、支援金に関する相談等

◎健康診断 神戸市国保特定健康診査 6月6日：7名 7月23：3名

◎ソフトバンク社 スマートフォン提供期間延長 2026年5月31日まで

自主事業

自主事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日本語教室	56人/8回	63人/8回	59人/8回	57人/9回	17人/3回	55人/8回	55人/10回	51人/8回	36人/6回	28人/8回	41人/8回	27人/5回
文化交流会		4人		10人		5人			10人			77人

◎日本語教室 週2回 ※学習者延べ人数を記載

◎ウクライナ文化交流会 不定期にて開催。7月からは兵庫県国際交流協会「ウクライナ避難民地域共創事業助成金」を受け実施

◎セラピードッグ 8月7日：10名

◎ランタン縁日 屋台出店 10月11日・12日

出演者 2名（ピアノ演奏・ウクライナ民族舞踊）

◎常盤女子高校ボランティア部 学校祭での出店・ウクライナ日本語教室との交流会

◎三田学園 中学生との交流会

◎夙川学園中学・高校での講演会 講師として2名が招かれた

◎姫路大学看護学生との交流会

ウクライナ文化交流会詳細

	開催日	講座名	参加者
第9回	2024年5月6日	ピサンカワークショップ	4名
第10回	2024年7月20日	ウクライナ料理教室	10名
第11回	2024年9月8日	ウクライナ民族舞踊レッスン	5名
第12回	2024年12月21日	クリスマス飾りワークショップ	10名
特別回	2025年3月23日	ウクライナ歴史劇公演	69名
第13回	2025年3月29日	バレエレッスン	8名

VIII. 定住外国人子ども奨学金実行委員会の事務局運営

今年度も引き続き事務局を引き受け、以下の活動を行いました。

1年生のブラジル人生徒は夏頃に兵庫県から転出してしまったため、奨学金支給は中止となりました。

今年度のコンサートは、阪急阪神 未来のゆめ・まち基金 阪急阪神ホールディングス株式会社様にご協力をいただき、100万人のクラシックコンサートからピアノとバイオリンの方にご出演いただきました。また昨年度に引き続き、ウクライナ避難民のバレエダンサーとその教え子の小学生たちが参加してくれ、楽しいコンサートになり、今年も好評でした。

ホール使用にかかる費用の高騰などから、チケット代を値上げしましたが、その分チケットの売れ行きが少し減ったので、多くの方にご参加いただくという点からみると、チケット代は再検討すべき点かと考えています。

4月2日 面接10名 決定4名（アメリカ×スペイン、中国、ウズベキスタン、ブラジル）

7月20日（土）大正筋イベント出展（ウクライナ、モンゴル、ネパールのおつまみ、ビール等販売）

8月25日（日）奨学生交流会、面談、作文指導、実行委員会

12月26日（木）奨学生交流会、面談、作文指導、実行委員会予定

2月2日（日）チャリティコンサート（100万人のクラシックライブからピアノとバイオリン、ウクライナバレエダンサーが出演）参加約250名

2025年3月1日～3月31日 第18期奨学生募集 13名の応募あり。

それぞれ、年3回面談、作文指導を実施。

ニュースレター発行 年3回発行